

○目標の見直し

- ・目標や評価指標について、見直しを行っていますか？

⇒計画については、適宜外部評価も取り入れながら見直しを図っていくように考えている。

○個々の事業の評価と見直し

- ・目標に基づいて、個々の事業の評価を行っていますか
- ・新規事業の開始だけでなく、既存事業の見直しを行っていますか

⇒計画策定において、すべての事業のあり方や考え方について見直しを図りながら実施している。一つ一つの事業が「これからも住み続けたいと思える清音村」につながり、住民が「生きがいや喜びを感じる暮らし」を実現していくことにつながることを考えて実施している。

○環境整備に向けての取り組み

- ・食環境や運動環境の整備など、健康づくりを支援する環境整備に取り組んでいますか？

⇒計画を推進していく上で、総務課・住民課・産業課・教育委員会・小学校・NPO・各種団体などと連携しながら取り組むようにしている。

<連携>

○計画策定や推進における連携への働きかけ

- ・関係部局との連絡、調整が円滑に図れていますか？

関係機関・団体との連携

企業との連携

住民組織との連携

⇒日常より各課との情報交換を図り、お互いの事業の把握や状況を把握する中で、お互い「これからも住み続けたいと思える清音村」をめざしていくために、保健担当課と他課が役割を持って取り組んでいることを明確にし、お互いの取り組みを認めながら事業展開している。実際には、小学生の健康づくり事業を展開する上で、運動指導でNPOと食生活改善で大学と、地域産業を利用し産業課と、そして小学校・教育委員会・健康福祉課が連携してお互いが役割を果たしながら、ひとつの事業を行っている。

- ・その他 地域のネットワーク作りへの工夫があればご紹介ください。

⇒清音 このままで、え宴会 の取り組みについて

この会は、住民と行政が「清音に住んでよかった」と思える村づくりをめざして、お互いが思いを語り合い信頼関係を築く中で、それぞれが出来る役割を果たしていくことを目的として活動している。

はじめに「清音に住んでよかった」と思える村になるために、まずは自分達の「10年後の健康な理想の暮らし」を描いてみた。行政が誘導するのではなく、住民一人ひとりが思いを語れるように心配りをする事で思いを語り出すことが出来、自分の意見を聞いてくれることにより、相手の意見も聞くことにつながった。これが、お互いを認め合う第1歩につながった。

そして、「清音に住んでよかった」と思える村になるためのひとつとして出てきた、「男性パワーが地域で発揮できる」ことを実現するために、何が必要かを話し合っていた。男性の集まる機会が必要ではといった意見のもと、男性の集まりやすい状況を検討していった。

反面、実施したアンケート調査結果や健診結果等から見ると、これから退職していく団塊の世代の男性の多さや、男性が集まるにしても、地域で話し合う機会がない。さらには、健康と感

じる人ほど生きがいがあること等が見えてきた。そこで、男性が参加しやすい機会としてビアガーデンという場を作ることとなった。

ビアガーデンをする上での準備等は、住民と行政それぞれが自分出来る役割を見つけて実行に移していった。従来であれば、役割等は行政からの割り当てで実施していたが、会に参加する住民自らが自分のこととして捕らえ、自分のできる役割を自らが見つけ果たして行く形となっている。参加者の募集に当たっては、酒を飲むことが主体ではなく、男性が地域で力を発揮できるようにしていくことを主体として考えているため、このビアガーデンの趣旨をきちんと理解してもらえよう住民自らが参加者一人ひとりに声をかけていく方法を採用した。また料理については、男性が料理を通じて地域で活躍できるように、現在行政で実施している男性料理教室のメンバーに協力を依頼し、会のメンバーは男性の力が発揮できるよう支援するように心がけた。食材についても、地域の農産業部門と連携を取り、地産地消で実施した。行政は、会場が利用できるよう関係課と調節を図り、住民の思いが実現できるように役割を果たしてきた。

従来であれば、行政がすべてお膳立てして実施していた事業も、住民と行政がお互いに思いを語り合い、同じ目標に向かって取り組むことで、住民が主体的に行動できることにつながり、成し遂げたことへの達成感が生まれ、行動したことが他の人から認められることで、次への行動への力になることとなり、生きがいや喜びにつながった。また、反省会やアンケート調査により次の活動への発展につながっている。

この他にも、同じ考え方で事業を実施していくことで、自分達が実施していけるという自信につながるるとともに、行事に参加した団体や個人が、自分達でもできることをやってみようという考えにつながり、それぞれでの活動に発展している。

この活動は、従来の行政の保健事業のあり方とは異なったものだと感じる。しかし、参加した住民の笑顔やひとつひとつの言葉、そしてデータから、この活動がこれからの保健事業に求められる活動であり、この考えで行政の行う事業すべてを見直していくことで、地域全体が「これからも住み続けたいと思える清音村」につながっていくものと確信している。

=====

先進地調査地域 佐賀県鳥栖市役所

面接者 鳥栖市健康増進課 坂井浩子氏

報告者 愛媛大学病院医療福祉支援センター

榎本 真幸

調査時期 平成16年3月

◎ [健康日本21 地方計画の策定・推進プロセス]

調査の視点 (ポイント)

<計画策定プロセス>…計画書作りではなくプロセス自体を重視しているか?

○策定組織

- ・ 策定組織には、必要な関係者が含まれていましたか?
⇒ 概ね網羅されている。
- 特に、重要と考えた関係機関や組織・団体は?
⇒ 食生活改善推進協議会、母子保健推進協議会、子育てサークル、保健所、
嘱託員連絡協議会など
- ・ 策定組織には、住民が含まれていましたか?
⇒ はい。
- ・ 住民委員の選択方法
⇒ こちらから、できそうな人を指名、依頼した。
- ・ 特に、重要（必要不可欠）と考えた住民組織・団体は?
⇒ 男の料理教室参加者、福祉ボランティア
- ・ 策定組織では、検討や議論等を活発に行いましたか?
⇒ 活発な議論ができたと思う。
- ・ 活発な議論ができたと思う具体的な根拠を挙げてください
⇒ 24回にわたるワーキンググループの会議にも参加人数は最初から最後まで一定しており、毎回グループワークの時間が足りないくらいの意見がでていた。意見を記録した模造紙は何枚にもなった。また、メンバーは終始にこやかな顔で話を聞いており、なごやか雰囲気の中で、会議がすすんでいった。
- ・ 活発な議論のためにした工夫があれば、ご紹介ください
⇒ 領域毎にグループを作り、各領域のメンバーの人数を6～7名として、一人ひとりが意見を出しやすいようにした。また、メンバー全員が必ず意見を言うように司会者が配慮した。話し合いの内容を発表するのも職員ではなく、メンバーが順番に発表した。さらに、途中の休憩時間には、ティータイムとしてセルフサービスでコーヒー等を飲みながら、メンバー同士の交流をはかった。
また、会議の最初にはゲームなどを取り入れ、緊張をほぐしてから会議に入った。
- ・ その他 策定組織に関する何らかの工夫をしましたか?
⇒ 子育て中のメンバーが出席しやすいように託児を設けた。

○現状およびニーズの把握

- ・地域の健康課題は明確に把握されていますか？

そのために活用しているデータは？

⇒平成13年度にうららアンケートとして、調査を行なった。そのデータを参考に現状を改善できるよう自分自身で健康チェックができるよう、市民と一緒に健康づくりマイシートを作成した。このチェックシートも一つの指標として活用している。

また、健診のデータ、エンゼルプランアンケート、教育委員会資料など。

- ・特に有効だと思われるもの、計画に反映できる継続的にモニタリングしている情報はありますか？

⇒健康づくりマイシートでの調査。

- ・住民のニーズは十分に把握されていますか？

⇒充分とはいえない。

- ・住民ニーズを把握するために行った工夫は？（アンケート調査以外）

⇒中学校PTA役員との懇話会。

市内中学校で生徒へのグループインタビュー。

- ・日常活動を通じてのニーズ把握への取り組み状況などしていますか？

⇒健診の問診票の活用、教室開催時のアンケート

○住民や関係者との目的、目標の共有

- ・策定を進める以前に計画策定の目的について十分話し合い確認しましたか

⇒地域保健計画を策定する目的をみんなで共有するために助言者に講演をしてもらい、グループで「幸せと健康について」熱く語り合った。

- ・目的等を共有するために工夫したことはありますか

⇒グループワークはもちろん、なごやかな雰囲気の中で話せるようお食事会などもした。

- ・計画の策定過程での議論を住民や関係者に公開していましたか 公開の方法は？

⇒途中で、ワーキングメンバーによる策定過程の報告を専門委員会で行い、協議・助言をもらった。

○計画の目標設定

- ・国の健康日本21の受け売りにならない工夫をしましたか？

⇒はい。行政と市民が一緒になって立てた計画というのが特徴で、目標も具体的な内容が多く、すぐに取り組めるような内容になっている。

- ・目標設定のためのプロセスを特に重視しましたか？

⇒市民との話し合いの中で意見を紙に書いたり、グループ討議の発表などは、良きプロセスだったと思う。

- ・地方計画の目標設定は、独自性のあるものになっていますか？

⇒各目標そのものは、特に独自性があるものではない。が、市民へのアンケートや市民の意見、地区診断に基づいた目標を設定した。

- ・貴自治体の目標設定の「うり」は何ですか？

⇒すべてのライフステージを対象にしている。

○目標と事業（手段）の関連

- ・目標を達成するための手段としての事業として明確になっていますか？
⇒概ねなっている。そのため、事業の見直しや評価指標の設定を行なった。
- ・目標と事業との関連を明確にするためにどのような作業を行いましたか？
⇒母子保健事業と老人保健事業ごとに事業体系図を作り、各事業を目標とつなげていった。
- ・事業実施にあたり、優先順位を検討して実施していますか？
⇒実施している。
- ・優先順位の検討はどのような根拠に基づいて、どのような手順で検討しましたか？
⇒ライフステージ毎に年度別の重点項目を決め、それに沿って事業に優先順位をつけ実施している。

○具体的な取り組みの提示

⇒年度別重点項目を設定し、また母子事業や成人事業の年次計画表を計画の中に明記している。

- ・計画が具体的な取組みに繋がることを意識していますか？
⇒はい、意識している。
- ・地方計画の取組み内容や役割が住民・関係者ごとに具体的に示されていますか？
⇒はい。わたしたち（市民）ができること・関係機関ができること・鳥栖市ができることと3つに分け、記載している。
- ・取組み内容をより具体的に示すための工夫があれば、ご紹介ください
⇒わかりやすい言葉・表現を用いた。
だれにでもすぐできることを取組みにあげた。

<計画策定後の推進>

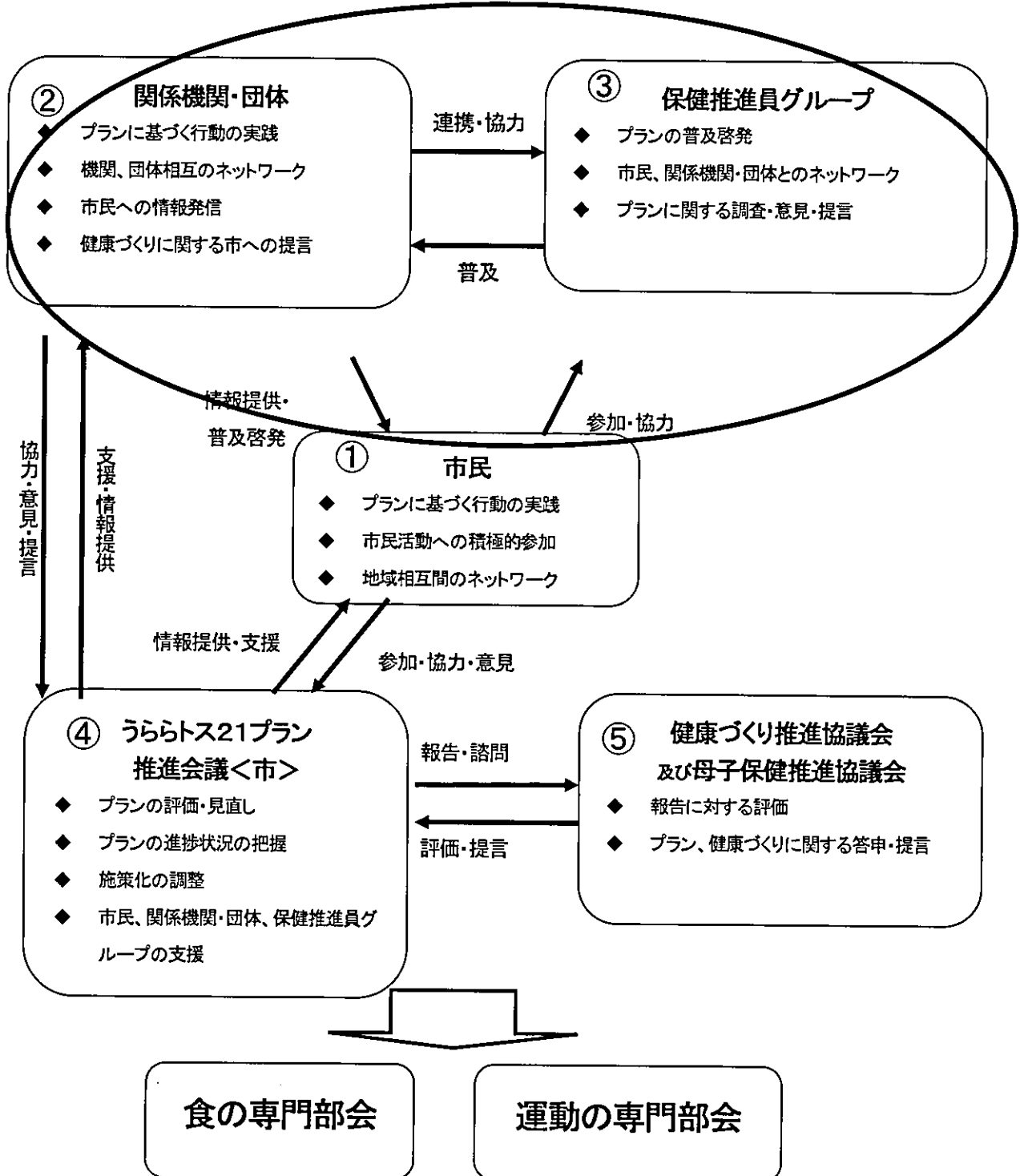
○ 取組みのための基盤整備

- ・地方計画を推進するための体制を整備していますか？⇒はい。
⇒庁内の体制づくり。関係機関との連携で、特に運動・食の専門部会を設置し、具体的な話し合いをしている。
- ・推進体制をご紹介ください

[うららトス21プランの推進体制]

幅広い市民の参画と関係機関・団体と連携した推進体制で、ヘルスプロモーションの理念に基づきプランの推進を図り、「笑顔と元気あふれる明るい鳥栖市」の実現を目指します。

(1) 体系図



(2) 計画推進のための役割

① 市民の役割

- プランの主体的実践者として、各自の意思の基にプランの実践に努める。
- 健康づくりの活動等に積極的に参加する。

② 関係機関・団体の役割

関係機関・団体とは、住民組織や健康づくり等に関する機関や団体を指す。

- プランの推進に向け、組織間の連携を図る。
- プランの普及、実践活動をする。
- うららトス21プラン推進会議に対して、プランに関する提言をする。

③ 保健推進員グループの役割

- プランの普及、啓発をする。
- プランの推進に向け、組織間の連携を図る。
- プランに関する調査・意見・提言を行なう。

④ うららトス21プラン推進会議の役割

うららトス21プラン推進会議は、庁内関係部課で構成する。

- 推進会議はプランの進捗状況の把握、評価、見直しを行なう。
- 推進会議は健康づくり推進協議会及び母子保健連絡会に対してプランの進捗状況や関係機関・団体からの提言内容等を報告する。
- プラン実践の各主体の活動に関する支援を行う。
- 施策の調整を行なう。

⑤ 健康づくり推進協議会及び母子保健連絡協議会の役割

健康づくり推進協議会及び母子保健連絡協議会は、市の保健衛生事業の総合的な協議を行なう団体である。主に、母子保健連絡協議会がプランの乳幼児期・思春期を、健康づくり推進協議会が成人期を協議する。

- プラン、健康づくりに関する答申・提言を行なう。
- うららトス21プラン推進会議からの報告に対する評価を行なう。

・推進体制を構築する上で、大切にしたいことは？

⇒ 特に庁内での部内会議において、わかりやすい説明や具体的な例を示した。「食」「運動」の専門部会については、食・運動の取り組みがあがっているところを部会の構成メンバーとし、横のつながりを大切にしている。その上で、各課・各関係機関・団体のマンネリ化した事業の見直しに役立て、ネットワークを拡大しつつあるところである。

○環境整備

- ・地方計画の各目標分野には、健康づくりを支援する環境整備について記載がありますか？
⇒それぞれの関係機関・団体ごとに記載をしている。
- ・環境整備の目標の検討に当たって、力を入れたことは？
⇒まず、より積極的な議論ができるよう、問題点を共有しあい、関係機関で自分ができることを出し合った。

○地方計画の周知

- ・地方計画や実施状況を、わかりやすく住民に周知していますか？
⇒はい。市の公報で毎月「うららキャンパス」コーナーを設け、プランの説明、紹介をしている。また、健康教室・出前講座において、プランのPRをしている。

- ・周知の方法、頻度、認知度の確認方法などについて、お教えてください

⇒

(1) 平成14年度

- ① うららトス21プランのダイジェスト版を作成し、またワーキングメンバーで作成した健康づくりマイシートを全戸に配布した。
- ② 関係機関・団体へ計画書・ダイジェスト版・健康づくりマイシートの配布。
- ③ イベントの開催。
 - ・ うららトス21フェスタ（全市民対象）
 - ・ うららキッズフェスタ（乳幼児とその保護者対象）
 - ・ 思春期講演会（中学生対象）
- ④ 保健推進の育成と組織化。
- ⑤ 市の公報で毎月「うららキャンパス」コーナーを設け、プランを紹介している。
現在（平成16年度）も実施中。

(2) 平成15年度

- ① 保健推進員養成講座の開催。修了者10名。
- ② うららトス21プラン関係機関・団体会議を設置し、会員への普及啓発を図った。
平成16年度
- ③ 全市民を対象とした講演会の開催。
～笑顔と元気があふれる街をめざして～
- ④ 健康づくりマイシートを配布・回収し、町ごとの集計結果を各町へ返した。
- ⑤ 各町でうららトス21プランの説明を行ない、健康な町づくりについて話し合い、町の取り組みを決め実践している。
- ⑥ 保健推進員グループは、市のイベント等の時に出向き、マイシート等を使ってプランの普及を図った。
- ⑦ 町での取り組みを継続して実践しているところを、ケーブルテレビで放送し、市民へ紹介した。

○地方計画の活用状況

- ・地方計画は、他の事業の計画や予算編成に活用していますか（予算への反映）
⇒ はい。
- ・地方計画に基づいて、予算の獲得がどれくらい容易になりましたか？
⇒ 補助事業でないとなかなか予算の獲得が容易とまではいかないが、新規事業をあげても少しなりとも予算はつくようだ。
- ・地方計画に基づく住民や関係者の活動を支援していますか
⇒ はい。
- ・具体的な支援の方法や支援の例をご紹介ください

⇒16年度は「わが町の自慢づくり」ということで、町全体で何か取り組んでもらうようにしたので、例えばラジオ体操の実施をあげた町にはテープを貸し出したり、希望者に体重グラフを配布した。また、ウォーキングコース・ウォーキンググループを募集した。

・地域自主組織の活動状況（活動数、活動内容）について把握していますか？

⇒平成16年度町内会の活動状況については、全町に報告書用紙を配布し、記入後提出してもらった。ウォーキンググループについては、回覧でグループ募集をし、メンバー構成と実際に歩いているコースを紹介してもらった。（応募者には、素敵なプレゼント付）

・把握した情報の活用や提供方法は？

⇒活発に活動している町については、クーミンテレビ（ケーブルテレビ：市の広報コーナーがあり、1日に5回1週間同じ内容が放送される。）で紹介をしている。

<進行管理・評価・見直し>

○進行管理組織

・進行管理組織を設置し、進捗状況について把握していますか

⇒いいえ。ただし、推進体制の中のうららトス21プラン推進会議及び関係機関・団体会議のなかで、各課、関係機関・団体の取り組みの進捗状況の把握を行なっている。

・進行管理組織について、ご紹介ください

⇒推進体制と同じ。

・進捗状況を把握するために行っていることは？

⇒取組状況、内容、今後の予定などを報告してもらっている。

○データ収集、モニタリングシステムの構築

・評価指標について、データ収集の方法がありますか。

⇒健診の間診票の活用、健康教室等の時にマイシートを使ったアンケート調査、健診の待ち時間を利用したアンケート調査。平成16年度については、全世帯に健康づくりマイシートを配布回収したので、そのデータがある。

・データ収集を行っている項目は？

⇒生活習慣に関する項目（食生活、運動、こころ、健診と歯、酒とたばこ）

・データ収集の間隔や頻度は？

⇒幼児健診については毎月、健康教室等は月2回程度実施しているので、その時にデータ収集している。

・データ収集における関係機関や住民組織・団体の関わりは？

⇒ない。

・収集されたデータの公表や情報提供はどうされていますか？

⇒平成16年度の健康づくりマイシートの結果については、嘱託員会で報告をし、市民へ集計結果表を回覧した。

○目標の見直し

・目標や評価指標について、見直しを行っていますか？

⇒平成15年度より単年度評価を行っており、評価指標等を見直しをしている。

・行った場合は、どのような見直しですか？

⇒評価指標の変更。

- ・見直す際には、どんな視点で見直しましたか？

⇒策定時の評価指標とデータとの違いから、今後も現評価指標でプランを進めていくかどうか

○個々の事業の評価と見直し

- ・目標に基づいて、個々の事業の評価を行っていますか

⇒はい。

- ・どの範囲の事業について評価を行っていますか？

⇒計画書の中に母子事業、成人事業の年次計画を記載しているので、それに沿った事業評価と各事業の実施要領の中の評価。

- ・事業評価の方法は？

⇒うららトス21プランの計画書の中の評価指標を基に各事業で違う。

- ・事業評価において大切にしていることは？

⇒行政側からの一方的な評価にならないこと。

- ・事業評価に関わっているのは誰ですか？

⇒全職員、健康づくり推進協議会

- ・新規事業の開始だけでなく、既存事業の見直しを行っていますか

⇒はい。

○環境整備に向けての取り組み

- ・食環境や運動環境の整備など、健康づくりを支援する環境整備に取り組んでいますか？

⇒はい。

- ・取り組まれている環境整備の内容は？

⇒庁内の関係課及び関係機関・団体のなかから「食」と「運動」の専門部会を設置し、会議・研修を重ねながら、自分たちのできること・他の機関ができることを知り、各自の活動・事業に生かしていく。ように、今取り組んでいるところです。

- ・環境整備において連携している行政部局、関係機関・団体は？

⇒「食」・・・生活環境課、健康増進課、福祉事務所、農林課、商工観光課、教育委員会（総務課、学校教育課、生涯学習課）、母子保健推進協議会、食生活改善推進協議会、育児サークル、栄養士会、保健所、薬剤師会、米消費拡大推進連絡協議会、佐賀農業・農村ふれあい実践協議会、PTA、学校、婦人連絡協議会

「運動」・・・健康増進課、福祉事務所、建設課、都市計画課、社会体育課、保健推進員、薬剤師会、老人クラブ連合会、体育指導委員協議会、生命の貯蓄体操普及会

<連携>

○計画策定や推進における連携への働きかけ

- ・関係部局との連絡、調整が円滑に図れていますか？

⇒円滑とまではいかないが、取れていることもある。（食の専門部会などでのグループワークによる情報交換など）

- ・連携ができていてこと端的に物語る事例があればご紹介ください。
⇒歩け歩け運動を計画し、コースを「鳥栖の特産物めぐり」とした時に農林課に相談したら、農家に交渉してくれた。
- ・連携を図るために行われている工夫は？
⇒各課が実施している事業を把握しておく。（推進会議の開催・専門部会での会議・研修）
このことにより、他の課・関係機関・団体のイベントに参加

○関係機関・団体との連携

- ・関係機関・団体等との連携が円滑に図れていますか
⇒まあまあ取れていると思う。
- ・連携できた機関・団体を通じて連携ができていてこと端的に物語る事例があれば・・・
⇒保健所主催で「健康日本21トス元気大会（地域・企業で応援しよう！健康づくり）」が開催されたが、この時保健所・農林事務所・農業改良普及センター・鳥栖市農林課・健康増進課で構成している「食ネット」では、各機関が自分たちができることを出し合い、また自分たちの関係団体を駆使し、行政・企業・農業生産者が協力して大会を成功させた。
- ・連携を図るために行われている工夫は？
⇒「食ネットについて」ほぼ月に1回会議を開催していること。
各自の事業の報告・反省をし、また行き詰った事業や新規事業の内容等について、検討・アドバイスをし、自分の事業だけではなく、他の事業も知ることができる。また、食・運動の専門部会においては、食では地産地消・安心・安全・相互利益、運動では生活習慣病予防・健康の維持増進等を意識しながら、グループワーク・研修会等を重ねている。

○企業との連携・・・職域との連携についての工夫

- ・地域の健康づくりに向けて、企業と連携が図れていますか？
⇒いいえ。まだ具体的にはとれていないが、「トス元気大会」の時にも何社かの企業に参加してもらい、展示説明・健康チェックなどをしてもらった。市からの直接的な連携ではなかったが今後このような地元企業とつながりが持てればと考えている。
- ・連携ができていてこと端的に物語る事例があればご紹介ください。
⇒直接にはない。
- ・連携を図るために行われている工夫は？
⇒直接にはない。
- ・産業保健との連携が円滑に図れていますか？
⇒いいえ。企業の保健関係者と話し合う必要性は感じている。
- ・連携ができていてこと端的に物語る事例があればご紹介ください。
⇒なし。
- ・連携を図るために行われている工夫は？
⇒なし。

○住民組織との連携・・・住民参加・自治を実現するための工夫

- ・住民組織，ボランティア，NPO等との連携が円滑に図れていますか
⇒円滑とはいえませんが、町で市の取り組みを行なうときには、快く協力していただいたり、何かあれば町のほうからも気軽に声がかかる。
- ・連携ができていてこと端的に物語る事例があればご紹介ください。
⇒嘱託員会に参加したり、要請があれば出前講座に出向いたり、町の話し合いには、夜でも出向いて参加させてもらっている。

<調査票2>

先進地用インタビューガイド

○あなたの自治体の健康増進計画の「うり」は何ですか？

①市民代表の方々（成人計画のワーキンググループメンバー32名、母子計画のワーキンググループメンバー33名）と健康増進課の職員で、24回にわたるワーキンググループの会議・研修会を行った。またその日のうちに職員による会議のまとめと内容の確認を行ったこと。

②全てのライフステージについて、また7つの領域にわけて目標、取り組みをあげていること。

○計画の策定において、もっとも大切にされたことは何ですか？（3つくらいまで）

①ワーキングメンバー一人ひとりに必ず意見を出してもらい、みんなでそれを考えること。

②関係機関・団体を巻き込むこと。

③庁内の他の課にも計画を理解してもらうよう努めた。

○それを大切にしたいと思ったのは、なぜですか？

①うららトス21プランは、行政がつくって市民におろす計画ではなく、市民と一緒に作り、市民一人ひとりが推進していくものだから。

②行政だけでは経済的にも人的にも限りがあるので、継続的に進めるためには、関係機関・団体を巻き込み、お互いの事業を展開し、相互利益を得ることが必要だから。

○何を大切にするかについて、誰と話し合いましたか？

ヘルスプロモーション研究所 藤内修二氏と職員
鳥栖市の郷土史家の話を聞き、鳥栖市の成り立ちや特徴をきいた。

○何を大切にするかについて、どの範囲の人達と確認しましたか？

ヘルスプロモーション研究所 藤内修二氏と健康増進課職員。
庁内各課の職員。教室参加者。センターに関連している機関・団体の代表者（会員）。

○策定において悩んだときに、サポートしてくれたのは誰でしたか？

ヘルスプロモーション研究所 藤内修二氏、保健所

○どのようなサポートが一番ありがたかったですか？

策定の進め方に迷ったときに、推進状況にあったアドバイスをもたらったこと。
即座に情報の提供をいただき、行なっている作業の確認ができたことはありがたかった。
また、区長（町内会長）や市民の方からこの計画に賛同し「これはやっていかないかん！」等のご意見を直接いただいたこと。

○計画を推進する上で、大きな原動力になっているのはどの組織・団体ですか？

①食生活改善推進協議会、②保健推進員、③区長会、④栄養士会

○計画を策定や推進を通して、「エンパワーされたなあ」と感じたのはどんなときでしたか？

①その道の専門家に思いがけない発想を聞かされたとき

②ある団体の事業の推進について、ネットワークや専門部会で話し合い、いろいろな意見・アドバイスがもらえたとき

○もっと、こうやれば良かったと思うことがあれば、教えてください。

①市民代表の意見は反映できたが、その人たちを通じてのプランの普及には至らず、保健推進員の必要性を感じた。施策を普及するための母体をもっとしっかり作っていく必要性を感じた。

②いろいろな機関・団体の行っていることが把握できていなかったので、策定時点では関係機関から漏れている団体がいくつかあった。

=====

先進地調査地 三重県松阪市

報告者 三重県松阪保健所 佐甲隆

全国保健センター連合会 村中峯子

調査日 平成17年1月28日

◎ [健康日本21 地方計画の策定・推進プロセス]

調査の視点 (ポイント)

<計画策定プロセス>

○策定組織

- ・策定組織には、必要な関係者が含まれていましたか？
 - ⇒ 計画策定検討会そのものには、住民の方々が含まれていないが、もともと、小学校区単位に地域づくり型保健活動で組織していた健康づくりのための組織が6箇所あり、その組織ごとに保健計画を作成したので、その計画を全体に計画に反映できるものにした。また、健康づくり推進協議会には、老人クラブ、保育園、子育てサークル、教育委員会をはじめ小中学校関係者、健康づくり推進員、医師会、薬剤師会、病院関係者、市議会、自治会連合会、社会福祉協議会、保健所などの関係者が36名参加しており、そこに計り、意見をもらった。
 - ・特に、重要と考えた関係機関や組織・団体は？
 - ⇒ 市民の方々の声が幅広く聞けることができるよう、様々な団体が大切と考えた。そのため、策定委員会とは別に、「健康づくり推進協会」にも図った。
 - ・策定組織には、住民が含まれていましたか？
 - ⇒ 小学校区単位の健康づくりクラブは、すべて住民。その健康クラブの全体会が虹クラブと呼び、そちらも定例会を行い、その代表者も健康づくり推進協議会に入っている。
 - ・策定組織では、検討や議論等を活発に行いましたか？
 - ⇒ おこなった。
 - ・活発な議論ができたと思う具体的な根拠を挙げてください
 - ⇒ 健康サークルごとに、健康に関する目的関連図を作成したが、これは住民さんと話し合い、保健師や行政の考えを押し付けるのではなく、住民さんが考えて作成したもの。
- ##### ○現状およびニーズの把握
- ⇒ アンケートそのものも、虹クラブのメンバーが手分けして、地域の人々の声を拾うためにアンケート調査の配付や回収に参加してくれた。また、高齢者に関しては、面接での聞き取り調査を活用した。
 - ・地域の健康課題は明確に把握されていますか？そのために活用しているデータは？
 - ⇒ 健康まつさかアンケート結果 ヘルスアセスメント結果
ヘルスケアアセスメント 結果 松阪市保健統計報告書(人口動態、年令別死因、年代別死因、妊産婦死亡、平均寿命、健康寿命、他)
 - ・住民のニーズは十分に把握されていますか？ 把握するために行った工夫は？
 - ⇒ 健康虹クラブ(地域の健康クラブ)との関係を大事にする
- ##### ○住民や関係者との目的、目標の共有
- ・計画を立てることへの主体的なモチベーション向上のための工夫
 - ⇒ 健康虹クラブ(地域の健康クラブ)との関係を大事にする

- ・計画策定の目的について十分話し合い確認しましたか
⇒ 各健康クラブでの話し合いを十分におこなった
- ・目的等を共有するために工夫したことはありますか
⇒ 目的関連図を作成

○計画の目標設定

- ・貴自治体の目標設定の「うり」は何ですか？
⇒ 健康虹クラブという、地域づくり型保健活動の蓄積が息づいている

○目標と事業の関連

- ・目標を達成するための事業が明確になっていますか？
⇒ 例えば、毎月7日は、市民健康の日と定め、体験型のイベントを実施することで、日頃の生活を健康の側面から振り返り、生活を見直す機会としている。
- ・目標と事業との関連を明確にするためにどのような作業を行いましたか？
⇒ 領域別の指標を作成 取り組みの事業を一覧表で作成 その測定方法も決めている

<計画策定後の推進>

○取り組みのための基盤整備

- ・推進体制をご紹介ください
⇒ 「健康松阪21」推進大作戦として、周知期・ブーム期・維持期を設定。その時期に応じた取り組みを展開。現在は、周知期であり、ポピュレーション。ストラテジーを意識し、計画推進のキャンペーンを展開している。市民、市職員、教育機関、関係団体、企業への周知、住民組織の育成、健康情報の提供を主として展開するのが大切な時期と位置付け

○環境整備が盛り込まれ、推進に役立っているか？

- ⇒ 「21」実現の拠点としての保健・医療・福祉総合センター施設検討事業として、市民委員や関係機関代表者からなる委員会を発足。先進地視察や委員会を開催し、市民と共につくる元気発信基地 in 松阪というワークショップも開催。ケーブルテレビも活用し、市民に積極的に周知している。

総合センター基本構想においては、「人が中心となり」21世紀、出会いとふれ

あいの場を施設整備のテーマとして、気軽に声を掛け合い、人の輪がひろがる場、活用できる場、元気のわいてくる場を目ざし、ソフトとハードの一体感ある取り組みを掲げている。

- ・地方計画の各目標分野には、健康づくりを支援する環境整備について記載がありますか？
⇒ ある。「いきいき松阪」とし、「元気で楽しくほっとなまち」のキーワードを「元気に過ごす」「ほっとできる」「ふれあいを楽しめる」「健康なまちづくり」とし、10の領域はそれぞれ「自分のからだを大事にしよう」「楽しく身体をうごかそう」「分煙のすすめ、禁煙のすすめ」「いつまでも自分の葉で食べたい」「素敵な自分発見」「ストレスと上手につきあおう」「心にゆとりや思いやり」「家族や仲間と楽しく過ごそう」「みんなですすめよう、健やかなまちづくり」とし、その拠点としての総合センター基本構想を市民と共に検討している。
- ・環境整備の目標の検討に当たって、力を入れたことは？
⇒ 検討会を重ね、人作り、意識づくりに力を入れている

○地方計画の周知

- ・地方計画や実施状況を、わかりやすく住民に周知していますか？
⇒ 計画に関するリーフレットを全戸配付。リーフレットは、見開きで「すごろく」になっており、双六遊びをしながら計画の内容が分かるような工夫がなされている。双六は、拡大判を作成し地域の催し物や幼稚園、小学校で活用されている。中学校では英訳の教材になった。

○地方計画の活用状況

- ・地方計画に基づく住民や関係者の活動を支援していますか（住民や関係者への支援）
⇒ している
- ・地域自主組織の活動状況（活動数、活動内容）について把握していますか？
⇒ 既述済み

<進行管理・評価・見直し>

○進行管理組織・・・計画の進行状況を適宜把握し見直しに反映させる工夫

- ⇒ 領域別指標をモニタリングし、健康づくり推進事業に反映

○データ収集、モニタリングシステムの構築

- ・評価指標について、データ収集の方法がありますか？データ収集を行っている項目は？
⇒ 「健康であると感じている人の増加の有無」「健康寿命」「汗をかくような運動をしている人の割合」「家族で食事をしている人の割合」など、約50項目。
- ・データ収集の間隔や頻度は？
⇒ 項目によるが、毎年のものであれば、中間でデータをとるものもある。

○目標の見直し・・・計画のバージョンアップなど適宜見直す工夫

- ・目標や評価指標について、見直しを行っていますか？
⇒ 現在、検討中(合併をしたこともあり、検討中)

○個々の事業の評価と見直し 計画策定に伴って、既存の事業の評価・見直しがされたか？

- ⇒ 現在、検討中(合併をしたこともあり、検討中)

○環境整備に向けての取り組み

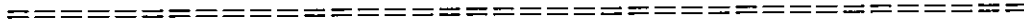
- ・食環境や運動環境の整備など、健康づくりを支援する環境整備に取り組んでいますか
⇒ 食生活推進員活動を実施。会員98名で、240回の活動を実施した。健康推進・生活習慣病関連が162回ともっとも多く、地区行事、母と子の健康貧血予防など、幅広く実施。

<連携>

○計画策定や推進における連携への働きかけ

- ・関係部局との連絡、調整が円滑に図れていますか？
⇒ とれている。今までよりも、保健活動に対する理解が広まった。積極的に他課に出向くようにしている。
- ・連携を図るために行われている工夫は？
⇒ 企業との連携は、今後の課題と考えている
産業保健との連携は、今後の課題と考えている
- ・住民組織、ボランティア、NPO等との連携が円滑に図れていますか

⇒ 地域づくり型保健活動での組織活動を展開している



◎地方健康増進計画（岡山市21推進会議）の推進における

○うりは？（優れている点、特徴）：

ヘルスボランティア組織を核とした、従来からの地域保健活動に21推進を位置づけ、地域ごと（人口10万当たり1カ所の保健センター）の活動が促進するような条件設定を行った。また、庁内でも推進の体制を明確化し保健部門以外への広がりをもたせている。

○分野を分けるなら：

1. モニタリング：基本健康診査のデータが電子化されており経年的な比較等分析ができる。「ええとこ発見図」に基づく歩行大会などの運動事業実績が保健部門主催以外であっても一部把握できる。

2. 人材育成：

・保健所職員は従来から地域組織活動を重要な業務と位置づけて携わっている。保健センター（市内6カ所の保健課出先）ごとに21推進会議を立ち上げ地域内各種団体やボランティアの参加を頂く運営としている。

・保健所職員にヘルスプロモーションの研修をh14年（5回）から実施し、H15（1回ただし対象は全庁）知識技術提供とともに方向性の統一と現場活動の評価の機会としている。

・庁内連絡会議を持ち各課における健康づくり、21推進にかかる事業を報告頂くとともに21全市イベント時の写真展でPRして頂いた。ヘルスプロモーション研修会を庁内38カ職員を対象に行った。

・全庁的な連絡会、イベント実行委員会および地域別連絡会議では、市民の主体的な参加をして頂けるようにまた、各団体にも主体的な参加を頂けるような運営としている。また、既存の健康ボランティア組織に参加していただき活動の中に21推進を明確な目標として頂くように働きかけている。

・健康ボランティア（愛育委員）には、全市、保研センター単位、小学校区単位等で行い、例えば昨年小学校区単位では583回延べ18545人参加など体系だった研修会を行い、知識や意思の統一を図っている。

3. 各区で推進するためのスーパーバイザー

4. 市としての唱導

・全市イベントを開催し地域での健康ボランティアなどによる主体的取り組みを発表していただいた。

・健康ボランティアによる21推進活動を学会、雑誌、新聞などに紹介し、携わる健康ボランティア・市民を高く評価した。

・健康ボランティア組織の活動の中に21の推進を位置づけるように働きかけた。

・庁内便りに毎号様々な課における21の推進が掲載され、国体の広報誌にも21全市イベントが掲載された。

・ももちゃん というキャラクターを作り市で取り上げている6分野ごとのシールを作成、した。「健康市民おかやま21」推進宣言施設・団体・個人登録事業の実施。

・「健康情報コーナー」の開設し市民に健康情報の発信基地としての役割をになえるように。

5. 調停 庁内38課による連絡会議

○うりができている要因は？

1. 従来から健康ボランティアによる地域保健活動を重視し支援してきた。その結果、愛育委員協議会（5000名）、栄養改善協議会（1200名）、おやこクラブネットワーク（3300組）という全市的・継続的・自主的組織がある。支援のノウハウや実績も日々の保健活動の中で蓄積されている。

質問案：健康ボランティアは地域住民の健康づくりに寄与していると住民は感じていますか？健康ボランティアの全市組織があるか？ボランティア数は？といった量的把握以外に質的な内容も必要と思います。その推進をどの程度重視しているかの設問はなかなか難しいですが重要と感じます。

2. 推進の体制を明確にした。庁内外の推進体制のイメージ図を作り周知を計った。

3. 庁内LANの共有ファイルに各保健センターごとの取り組みを保存し、職員がいつでも見ることができようにした。各センター推進会議開催状況、コミュニティー協議会（小学校区単位）・公民館との連携事業、事例紹介（仕掛けの方法や保健師の役割、今まで無かった広がり、地区の状況、目的、内容）

=====

先進地調査地域 愛媛県 西予市（せいよし）

（平成16年4月に愛媛県南部の西宇和郡1町と東宇和郡4町の合併による）

報告者 愛媛県健康増進センター

所長 新山徹二

1. 背景

管轄保健所	愛媛県 八幡浜中央保健所	
概況（平成12年）	人口	47,215
	高齢化率	30.9%
	出生数	575
	死亡数	320
健康増進計画	名称	『元気だ！せいよ』 （西予市健康づくり計画2014）
	策定期間	平成17年4月（予定）
	策定準備期間	平成14年12月～平成16年3月
	実質策定期間	平成16年4月～平成17年3月

2 計画策定プロセス

1) 策定組織

西予市健康づくり計画の策定組織は（資料1）のとおりである。

*西予市健康づくり計画策定委員会

最上位組織として西予市健康づくり計画策定委員会が設置され、計画の最終決定機関として計画案の審議・承認を行った。委員会は医師会長や保健所長・市議会議員・住民代表などで構成され、実質策定期間の1年間に3度開催された。

*ワーキンググループ小委員会

この委員会は事務局的性格の組織で、健康情報の収集や分析・各方面からの意見の集約・計画案の作成などを行う。実質的に計画作成の原動力となる集団で、西予市保健センターの技術系及び事務系職員・西予市の福祉及び国保の担当者・保健所の技術職員・県国保連合会担当者などで構成されるが、計画策定全体へのアドバイスを行う役割で愛媛県の公衆衛生技術指導機関である愛媛県健康増進センターからアドバイザーとして医師が参加している。実質的な作業を行う組織であるため、おおむね月に1度のペースでこの委員会が開催された。

*ワーキング委員会

この委員会は市民の意見をできるだけ計画に反映させることを目的に組織され、市民公募の委員やボランティアグループの代表・各地区組織の代表などで構成される。おおむね2ヶ月に1度のペースで開催され、各分野ごとにグループをつくりグループワーク形式によりそれぞれの市民の立場から意見を出し合い、西予市の健康づくり対策について市民と共に考える場となった。